

DI ニュース

(Drug Information News)
NO. 339
2013年3月
徳山医師会病院 薬局
TEL:0834-31-7716
FAX:0834-32-5349
e-mail:yaku@tokuyamaishikai.com

薬局ホームページアドレス <http://www.tokuyamaishikai.com/yaku/index.htm>

1. お知らせ

○パリエット錠10mg (エーザイ)、クラリス錠200 (大正富山)、タケブロンOD錠15/30・ランサップ400 (武田)、ネキシウムカプセル20mg (アストラゼネカ)、サワシリン錠250 (アステラス)、**オプランゼ錠10/20 (テバ)、ランソプラゾールOD錠15mg「タイヨー」/30mg「タイヨー」**の【効能・効果】、効能又は効果に関連する使用上の注意が一部追記されました。<ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の部分> (下線部——追記箇所)

【効能・効果】<ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の部分>

下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎

～効能又は効果に関連する使用上の注意～ <ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の部分>

1. 本剤の投与が胃癌による症状を隠蔽することがあるので、悪性でないことを確認のうえ投与すること (胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助を除く)。<パリエット錠のみに記載あり>
2. 進行期胃MALTリンパ腫に対するヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は確立していない。
3. 特発性血小板減少性紫斑病に対しては、ガイドライン等を参照し、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切と判断される症例にのみ除菌治療を行うこと。
4. 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃以外には、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制に対する有効性は確立していない。
5. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に用いる際には、ヘリコバクター・ピロリが陽性であること及び内視鏡検査によりヘリコバクター・ピロリ感染胃炎であることを確認すること。

○リバロ錠2mg (興和) の【用法・用量】が一部変更されました。 (二重線部——削除箇所)

【用法・用量】通常、成人にはピタバスタチンカルシウムとして1～2mgを1日1回~~夕食後に~~経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減し、LDL-コレステロール値の低下が不十分な場合には増量できるが、最大投与量は1日4mgまでとする。

○エクア錠50mg (ノバルティスファーマ) の【効能・効果】が変更され、用法及び用量に関連する使用上の注意が新設されました。 (二重線部——削除箇所)

【効能・効果】2型糖尿病

~~ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。~~

~~①食事療法、運動療法のみ~~

~~②食事療法、運動療法に加えてスルホニル尿素剤を使用~~

～用法及び用量に関連する使用上の注意～

中等度以上の腎機能障害のある患者又は透析中の末期腎不全患者では、本剤の血中濃度が上昇するおそれがあるので、50mgを1日1回朝に投与するなど、慎重に投与すること。

○リリカカプセル25mg/75mg (ファイザー) の【効能・効果】が一部変更されました。

(二重線部——削除箇所)

【効能・効果】末梢性神経障害性疼痛、線維筋痛症に伴う疼痛

○インデラル錠10mg (アストラゼネカ) の【効能・効果】、【用法・用量】、効能・効果に関連する使用上の注意が追記されました。 (下線部——追記箇所)

【**効能・効果**】本態性高血圧症（軽症～中等症）

狭心症

期外収縮（上室性、心室性）、発作性頻拍の予防、頻拍性心房細動（徐脈効果）、洞性頻脈、新鮮心房細動、発作性心房細動の予防

褐色細胞腫手術時

片頭痛発作の発症抑制

【**用法・用量**】1. 本態性高血圧症（軽症～中等症）に使用する場合

通常、成人にはプロプラノロール塩酸塩として1日30～60mgより投与をはじめ、効果が不十分な場合は120mgまで漸増し、1日3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

2. 狭心症、褐色細胞腫手術時に使用する場合

通常、成人にはプロプラノロール塩酸塩として1日30mgより投与をはじめ、効果が不十分な場合は60mg、90mgと漸増し、1日3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 期外収縮（上室性、心室性）、発作性頻拍の予防、頻拍性心房細動（徐脈効果）、洞性頻脈、新鮮心房細動、発作性心房細動の予防に使用する場合

成人

通常、成人にはプロプラノロール塩酸塩として1日30mgより投与をはじめ、効果が不十分な場合は60mg、90mgと漸増し、1日3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

小児

通常、小児にはプロプラノロール塩酸塩として1日0.5～2mg/kgを、低用量から開始し、1日3～4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。効果が不十分な場合には1日4mg/kgまで増量することができるが、1日投与量として90mgを超えないこと。

4. 片頭痛発作の発症抑制に使用する場合

通常、成人にはプロプラノロール塩酸塩として1日20～30mgより投与をはじめ、効果が不十分な場合は60mgまで漸増し、1日2回あるいは3回に分割経口投与する。

～効能・効果に関連する使用上の注意～

1. 期外収縮（上室性、心室性）、発作性頻拍の予防、頻拍性心房細動（徐脈効果）、洞性頻脈、新鮮心房細動、発作性心房細動の予防

小児等に、期外収縮（上室性、心室性）、発作性頻拍の予防、頻拍性心房細動（徐脈効果）、洞性頻脈、新鮮心房細動、発作性心房細動の予防を目的に本剤を使用する場合、小児等の不整脈治療に熟練した医師が監督すること。基礎心疾患のある場合は、有益性がリスクを上回ると判断される場合にのみ投与すること。

2. 片頭痛発作の発症抑制

本剤は、片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与すること。

2. 医薬品・医療用具等安全性情報

(No. 299)2013年2月

厚生労働省医薬食品局

【概要】

1. PMDA 医療安全情報の活用について

1. はじめに

医薬品医療機器総合機構（以下「PMDA」という。）では、平成19年度から、収集されたヒヤリ・ハット事例や副作用・不具合報告の中から、同様の事象が繰り返し報告されている事例等について「PMDA 医療安全情報」を作成し、医療従事者の方々に広く周知を図っています。医薬品・医療機器を安全に使用するためにお役立ていただきたく、改めて、その内容、閲覧方法についてお知らせします。

2. 「PMDA医療安全情報」について

「PMDA医療安全情報」では、これまでに収集されたヒヤリ・ハット事例や副作用・不具合報告の中から、同様の事象が繰り返し報告されている事例若しくは医療安全の観点から添付文書改訂等につながった事例などについて注意喚起しています。

医療従事者に対して安全に使用するために注意すべき点などを、イラストや写真などを用いてわかりやすく解説し、広く周知することを目的に作成しています。「PMDA医療安全情報」は、医師・薬剤師・

看護師・臨床工学技士等の医療従事者、人間工学分野などの専門家及び医薬品又は医療機器製造販売業者の業界団体の意見を参考として、PMDAが作成し公表しています。

現在、公表中の「PMDA医療安全情報」は以下をご覧ください。

No 発行年月日 タイトル (平成25年2月1日現在)

- 1 平成19年11月 栄養チューブ閉塞時の注意点について
- 2 平成19年11月 蘇生バッグの回収について
- 3 平成20年1月 気管切開チューブへのスピーチバルブ等の誤接続の注意について
- 4 平成20年6月 在宅酸素療法時の喫煙などの火気取扱いの注意について
- 5 平成20年6月 微量採血のための穿刺器具の取扱いについて
- 6 平成20年10月 抗リウマチ剤メトトレキサート製剤の誤投与（過剰投与）について
- 7 平成21年1月 人工呼吸器の取扱い時の注意について（その1）
- 8 平成21年2月 インスリンペン型注入器とその注射針（A型専用注射針）の組み合わせ使用について
- 9 平成21年2月 ジャクソンリース回路の回収について
- 10 平成21年5月 自動体外式除細動器（AED）の適切な管理について
- 11 平成21年8月 人工呼吸器の取扱い時の注意について（その2）
- 12 平成21年9月 止血用圧迫帯（止血用カフ）の誤接続使用について
- 13 平成21年10月 ガスボンベの取り違い事故について
- 14 平成22年2月 電気メスの取扱い時の注意について（その1）
- 15 平成22年3月 電気メスの取扱い時の注意について（その2）
- 16 平成22年4月 電気メスの取扱い時の注意について（その3）
- 17 平成22年5月 プレフィルドシリンジ製剤の取扱いについて
- 18 平成22年6月 微量採血のための穿刺器具による採血時の注意について
- 19 平成22年9月 カリウム（K）製剤の誤投与について
- 20 平成22年11月 人工呼吸器の取扱い時の注意について（その3）
- 21 平成23年1月 輸液ポンプの流量設定時の注意について
- 22 平成23年2月 血液浄化用回路の取扱い時の注意について
- 23 平成23年4月 インスリン注射器の取扱い時の注意について
- 24 平成23年6月 ニードルレスバルブ使用時の注意について
- 25 平成23年9月 MR I 検査時の注意について（その1）
- 26 平成23年9月 MR I 検査時の注意について（その2）
- 27 平成23年10月 溶解液が添付されている医薬品の取扱いについて
- 28 平成23年11月 血糖測定器の取扱い上の注意について
- 29 平成23年12月 心電図モニタの取扱い時の注意について
- 30 平成24年4月 気管チューブの取扱い時の注意について
- 31 平成24年5月 注射用放射性医薬品の取扱い時の注意について
- 32 平成24年6月 閉鎖式吸引カテーテルの取扱い時の注意について
- 33 平成24年9月 手術時の熱傷事故について
- 34 平成24年10月 グリセリン浣腸の取扱い時の注意について
- 35 平成24年10月 気管切開チューブの取扱い時の注意について

3. 閲覧方法について

医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載されていますので、院内での情報共有や研修など医療安全活動にお役立てください。また、ホームページへの掲載と同時に、メール配信サービス「PMDAメディナビ」でも配信しておりますので、「PMDAメディナビ」に登録いただき迅速な入手に是非ご活用ください。

○医薬品医療機器情報提供ホームページ

http://www.info.pmda.go.jp/anzen_pmda/iryo_anzen.html

○PMDAメディナビの登録

<http://www.info.pmda.go.jp/info/idx-push.html>

PMDAメディナビは医薬品・医療機器の安全性等に関する特に重要な情報が医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載された際に、迅速にその情報を電子メールにより、無料で配信するサービスです。

4. 最後に

「PMDA医療安全情報」は、今後も順次追加掲載される予定ですので、病院等における安全管理の責任者の方々をはじめ医療従事者におかれましては、医薬品・医療機器の安全使用の推進のためにご活用ください。

また、医薬品医療機器情報提供ホームページでは、「PMDA医療安全情報」の他にも医薬品・医療機器の安全使用等に役立つ情報を掲載していますのでご活用いただくとともに、PMDAメディナビに登録いただき、より迅速で積極的な情報収集にお役立てください。

2. 重要な副作用等に関する情報

【1】ザナミビル水和物

当院採用品：リレンザ

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

ショック，アナフィラキシー：ショック，アナフィラキシー（血圧低下，呼吸困難，咽頭・喉頭浮腫等）が起こることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

【2】ジョサマイシン

ジョサマイシンプロピオン酸エステル

当院採用品：なし

販売名

ジョサマイシン：ジョサマイシン錠50mg，同錠200mg

ジョサマイシンプロピオン酸エステル：ジョサマイシロップ3%，同ドライシロップ10%

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔禁忌〕

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

〔副作用（重大な副作用）〕

ショック，アナフィラキシー：ショック，アナフィラキシーがあらわれることがあるので，観察を十分に行い，蕁麻疹，呼吸困難，血圧低下等の異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）：皮膚粘膜眼症候群があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

【3】スニチニプリング酸塩

当院臨時採用品：スーテントカプセル12.5mg

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群），多形紅斑：皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

【4】竜胆瀉肝湯（医療用）

当院採用品：なし

販売名：ツムラ竜胆瀉肝湯エキス顆粒（医療用）等

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

間質性肺炎：咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等があらわれた場合には，本剤の投与を中止し，速やかに胸部X線，胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

3. 医薬品安全対策情報

Drug Safety Update No. 216(2013.1)

添付文書の改訂

★最重要と☆重要のみ当院採用薬を記載

☆ザナミビル水和物（リレンザ／グラクソ・スミスクライン）

〔副作用〕の「重大な副作用」
一部改訂

4. 新規収載医薬品

2013年2月22日薬価収載

コレアジン錠12.5mg	
製造・販売	アルフレッサファーマ
分類	内用薬：ハンチントン病に伴う舞踏運動を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	テトラベナジン
薬価	12.5mg1錠385.40 円
効能・効果	ハンチントン病に伴う舞踏運動
用法・用量	通常、成人にはテトラベナジンとして1日量12.5mg（12.5mgの1日1回投与）から経口投与を開始し、以後症状を観察しながら1週毎に1日量として12.5mgずつ増量し、維持量を定める。その後は、症状により適宜増減するが、1日最高投与量は100mgとする。なお、1日量が25mgの場合は1日2回、1日量が37.5mg以上の場合には1日3回に分けて投与することとし、1回最高投与量は37.5mgとする。
トビエース錠4mg 8mg	
製造・販売	ファイザー
分類	内用薬：過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	フェソテロジンフマル酸塩
薬価	4mg1錠190.90 円 8mg1錠286.40 円
効能・効果	過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁
用法・用量	通常、成人にはフェソテロジンフマル酸塩として4mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じて1日1回8mgまで増量できる。
エリキューズ錠2.5mg 5mg	
製造・販売	ブリistol・マイヤーズ
分類	内用薬：非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	アピキサバン
薬価	2.5mg1錠144.90 円 5mg1錠265.20 円
効能・効果	非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
用法・用量	通常、成人にはアピキサバンとして1回5mgを1日2回経口投与する。なお、年齢、体重、腎機能に応じて、アピキサバンとして1回2.5mg1日2回投与へ減量する。
エルカルチンFF内用液10%	
製造・販売	大塚製薬
分類	内用薬：カルニチン欠乏症を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	レボカルニチン
薬価	10%1mL 70.40 円
効能・効果	カルニチン欠乏症
用法・用量	通常、成人には、レボカルニチンとして、1日1.5～3g（15～30mL）を3回に分割経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。 通常、小児には、レボカルニチンとして、1日体重1kgあたり25～100 mg（0.25～1mL）を3回に分割経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。
テルグラ配合錠	
製造・販売	サノフィ
分類	内用薬：アレルギー性鼻炎を効能・効果とする新医療用配合剤（新医療用配合剤）
一般名	フェキソフェナジン塩酸塩／塩酸プソイドエフェドリン
薬価	1錠62.00 円
効能・効果	アレルギー性鼻炎
用法・用量	通常、成人及び12歳以上の小児には1回2錠（フェキソフェナジン塩酸塩として60mg及び塩酸プソイドエフェドリンとして120mg）を1日2回、朝及び夕の空腹時に経口投与す

	る。
アメパロモカプセル250mg	
製造・販売	ファイザー
分類	内用薬：腸管アメーバ症を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	パロモマイシン硫酸塩
薬価	250mg1カプセル431.90 円
効能・効果	腸管アメーバ症
用法・用量	通常、成人には、パロモマイシン硫酸塩1500mg（力価）を1日3回に分けて10日間、食後に経口投与する。
マラロン配合錠	
製造・販売	グラクソ・スミスクライン
分類	内用薬：マラリアを効能・効果とする新有効成分含有・新医療用配合剤（新有効成分・新医療用配合剤）
一般名	アトバコン／プログアニル塩酸塩
薬価	1錠484.30 円
効能・効果	マラリア
用法・用量	<p>治療：</p> <p>通常、成人には1日1回4錠（アトバコン／プログアニル塩酸塩として1000mg/400mg）を3日間、食後に経口投与する。</p> <p>通常、小児には体重に応じてアトバコン／プログアニル塩酸塩として250mg/100mg（1錠）～1000mg/400mg（4錠）を1日1回3日間、食後に経口投与する。体重別の投与量は、下記のとおりである。</p> <p>11～20kg：250mg/100mg（1錠）</p> <p>21～30kg：500mg/200mg（2錠）</p> <p>31～40kg：750mg/300mg（3錠）</p> <p>>40kg：1000mg/400mg（4錠）</p> <p>予防：</p> <p>通常、成人及び体重40kgを超える小児には1日1回1錠（アトバコン／プログアニル塩酸塩として250mg/100mg）を、マラリア流行地域到着24～48時間前より開始し、流行地域滞在中及び流行地域を離れた後7日間、毎日食後に経口投与する。</p>
ナーフロック筋注2500単位	
製造・販売	エーザイ
分類	注射薬：痙性斜頸を効能・効果とする新有効成分医薬品（新有効成分）
一般名	B型ボツリヌス毒素
薬価	2,500単位0.5mL1瓶28,902 円
効能・効果	痙性斜頸
用法・用量	<p>通常、成人にはB型ボツリヌス毒素として以下の用量を緊張筋*に筋肉内注射する。緊張筋が複数ある場合は、分割して投与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回投与の場合には、合計で2500～5000単位を投与する。 ・効果不十分または症状再発の場合には、合計で10000単位を上限として再投与することができる。ただし、2ヵ月以内の再投与は避けること。 <p>※緊張筋：胸鎖乳突筋、斜角筋、僧帽筋、肩甲挙筋、頭板状筋、頭半棘筋等</p>
トレシーバ注 フレックスタッチ ペンフィル	
製造・販売	ノボノルディスクファーマ
分類	注射薬：インスリン療法が適応となる糖尿病を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	インスリンデグルデク（遺伝子組換え）
薬価	トレシーバ注 フレックスタッチ：300単位1キット2,546 円 トレシーバ注 ペンフィル：300単位1筒1,796 円
効能・効果	インスリン療法が適応となる糖尿病
用法・用量	トレシーバ注 フレックスタッチ： 通常、成人では、初期は1日1回4～20単位を皮下注射する。注射時刻は毎日一定とする。投与量は患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減する。他のインスリン製剤を併用することがあるが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位である。但し、必要により上記用量を超えて使用することがある。

	<p>トリーシーバ注 ペンフィル： 通常、成人では、初期は1日1回4～20単位を専用のインスリンペン型注入器を用いて皮下注射する。注射時刻は毎日一定とする。投与量は患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減する。他のインスリン製剤を併用することがあるが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位である。但し、必要により上記用量を超えて使用することがある。</p>
エルカルチンFF静注1000mg	
製造・販売	大塚製薬
分類	注射薬：カルニチン欠乏症を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	レボカルニチン
薬価	1,000mg5mL1管934 円
効能・効果	カルニチン欠乏症
用法・用量	通常、レボカルニチンとして1回体重1kgあたり50mgを3～6時間ごとに、緩徐に静注（2～3分）又は点滴静注する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1日の最大投与量は体重1kgあたり300mgとする。 血液透析に伴うカルニチン欠乏症に対しては、通常、レボカルニチンとして体重1kgあたり10～20mgを透析終了時に、透析回路静脈側に注入（静注）する。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。
シムジア皮下注200mgシリンジ	
製造・販売	ユーシービージャパン
分類	注射薬：既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	セルトリズマブ ペゴル（遺伝子組換え）
薬価	200mg1mL1筒71,297 円
効能・効果	既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）
用法・用量	通常、成人にはセルトリズマブ ペゴル（遺伝子組換え）として、1回400mgを初回、2週後、4週後に皮下注射し、以後1回200mgを2週間の間隔で皮下注射する。 なお、症状安定後には、1回400mgを4週間の間隔で皮下注射できる。
ニュープロパチン2.25mg 4.5mg 9mg 13.5mg	
製造・販売	大塚製薬
分類	外用薬：パーキンソン病、中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
一般名	ロチゴチン
薬価	2.25mg1枚270.30 円 4.5mg1枚416.50 円 9mg1枚641.80 円 13.5mg1枚826.50 円
効能・効果	パーキンソン病 中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群） （下線部については、2.25mg及び4.5mgのみ）
用法・用量	<p>●パーキンソン病 通常、成人にはロチゴチンとして1日1回4.5mg/日からはじめ、以後経過を観察しながら1週間毎に1日量として4.5mgずつ増量し維持量（標準1日量9mg～36mg）を定める。なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日量は36mgを超えないこと。 本剤は肩、上腕部、腹部、側腹部、臀部、大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。</p> <p>●中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群） 通常、成人にはロチゴチンとして1日1回2.25mg/日からはじめ、以後経過を観察しながら1週間以上の間隔をあけて1日量として2.25mgずつ増量し維持量（標準1日量4.5mg～6.75mg）を定める。なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日量は6.75mgを超えないこと。 本剤は肩、上腕部、腹部、側腹部、臀部、大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。</p>

5. Q&Aコーナー

★タミフルカプセルを予防で投与する場合の用法用量は？
通常1回75mgを1日1回、7～10日間。

6. ウイルスプロテクター

先月、次亜塩素酸ナトリウムを含む「ウイルスプロテクター」にて火傷するなどの被害が出てニュースとなりました。消費者庁から注意情報が出されているので、載せてみたいと思います。

次亜塩素酸ナトリウムを含むとの表示がある「ウイルスプロテクター」をお持ちの方は直ちに使用を中止してください。

首からぶら下げるタイプの携帯型空間除菌剤によって化学熱傷を起こす事故が発生しております。該当製品をお持ちの方は、直ちに使用を止めてください。

1. 製品について

(1) 製品名

空間除菌剤「ウイルスプロテクター」

(2) 製品に関する事業者

ア 発売元 株式会社ダイトクコーポレーション

イ 輸入元 ERA Japan 株式会社

2. 事故情報について

(1) 重大事故等

表 消費者安全法により通知された重大事故等

事故発生日	被害状況等	事故内容	事故発生都道府県
平成25年2月2日	重症1名	除菌剤（プレート型）を首から下げて幼児を抱っこしていたところ、幼児の胸部が体幹接触皮膚炎の重症。	千葉県

※ 消費者安全法第12条第1項の規定に基づく通知内容の概要であり、現時点において、調査等により事実関係が確認されたものではなく、消費者庁として事故原因を確定したものではありません。

(2) 重大事故等以外

ア 自治体からの情報

<事例1>

母親が友人から通販で購入した空間除菌を謳う、ウイルスプロテクターをもらい、子供の首にかけて利用したところ、胸にやけどのような赤い跡が出来て水疱になった。

（平成25年2月発生 男性10歳未満）

<事例2>

インフルエンザに効くとある首から下げるカードをポケットに入れていたところ、大腿部にやけどを負った。情報提供したい。

（平成25年2月発生 男性10歳代）

イ 医療機関からの情報

医療機関から、3例のウイルスプロテクターによる化学熱傷の報告があります。

<事例1>

腹部にⅡ度のやけど。衣服の上から密着。洋服は脱色。数時間密着か。汗をかいた。

（女性50歳代）

<事例2>

腹部にⅡ度のやけど。衣類の上から、かけていた。

（男性40歳代）

<事例3>

肌着の上からつけた。子どもを抱っこしていたら穴の空いたほうが皮膚側になっていたようだ。3時間位たったらひりひりした。

（女性30歳代）

3. 化学熱傷について

(1) 化学熱傷とは

化学熱傷とは化学物質による皮膚・粘膜の損傷です。多くは化学物質そのものによる細胞の障害や、二次的に生じる発熱作用などによって局所の炎症や組織壊死が引き起こされます。

(2) 使用している薬剤の液性の確認

製品の中には、不織布に包まれた錠剤が入っています。錠剤に水を含ませると、pH 試験紙で強酸性を示したことから、皮膚に刺激があることが推測されます。

(3) 刺激性の確認

①使用されている薬剤を豚肉に接触させる。

②60分後にたんぱく質の変性がみられた。

以上のことから、錠剤の成分が皮膚に傷害を与えることが推測されます。

(協力：国民生活センター)

(4) 化学熱傷になった場合の処置

症状は、普通のかぶれ（通常数日後に発症）と違って、使用してから数時間で起こることが特徴です。症状もかぶれのかゆみではなく、やけどをした時の比較的強いヒリヒリした感じですが。

除菌剤が当たっていた皮膚が赤くなっていたら、まず微温湯でしっかり洗い流し、早めに皮膚科を受診してください。

(情報提供：日本臨床皮膚科医会)

参照：消費者庁ホームページ

